



巻頭言

女性自然科学者育成への想い： 故林太郎先生のお心に支えられて



室伏きみ子 Kimiko MURAKAMI-MUROFUSHI

ビューティ&ウェルネス専門職大学 学長、お茶の水女子大学 名誉教授・前学長

日本における科学技術系女性研究者の育成は、30年来の課題でした。2002年に発足した男女共同参画学協会連絡会の20年余りにわたる活動や、内閣府・男女共同参画会議、文科省や経産省の審議会、日本学術会議、国立大学協会等での検討と活動を経て、近年、様々な施策が実施されるようになってきました。それでもまだ、女性研究者の割合は、OECD加盟国の中で最低レベル（2020年で16.9%）に留まっています。

2003年に「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」という目標が、男女共同参画推進本部で決定され、その後、この目標達成に向けた施策が進められ、第2次男女共同参画基本計画（2005年）と第3期科学技術基本計画（2006年）を皮切りに、第5次男女共同参画基本計画（2020年）、第6期科学技術・イノベーション基本計画（2021年）に至るまで、十分とは言えないまでも、科学技術・学術分野における女性研究者の活躍促進をテーマに、問題提起と提言がなされてきました。

2006年から国の女性研究者支援事業が始まり、文部科学省の「女性研究者支援モデル育成プログラム」、「女性研究者養成システム改革加速事業」、「女性研究者研究活動支援事業」などの事業が動き出したことは喜ばしいことでした。私は、省庁の審議会委員や事業の選考委員として、長年にわたってそれらの事業に関わってきましたが、折々に、それらの事業が開始される23年も前の1983年に、故林太郎お茶の水女子大学名誉教授（有機化学・有機光化学）が、女性科学者を育てようと、私財を投じて「公益信託・林女性自然科学者研究助成基金」を創設されたこと、そしてその基金によって、事業終了の2014年までの30年余りにわたって多くの女性たちが支援されてきたことを、思い起こしていました。林先生のお心に支えられ、研究と教育を続けて来た研究者の一人としての想いを、本稿で紹介させていただきたく思います。

林先生は、東京女高師とお茶の水女子大学教授として39年間にわたって、女子の化学教育と研究指導に携わられた体験から、日本の女性科学者が恵まれない環境に置かれていることを痛感されて、この基金を創設されました。最初は毎年2名の女性研究者に授与される形で進められましたが、1988年12月23日に先生が不慮の事故で亡くなられた後、先生のご遺志の下、6億円余りものご遺産をこの基金にご寄贈いただくこととなりました。そして林基金は、全国の多くの女性自然科学者がそれぞれの夢を叶えるための、大きな支えとなってきました。林基金によって励まされた女性たちは旧体制での7年間に14名、新体制になってからの23年間で延べ640名に及びます。私自身も、旧体制下と新体制下で林基金のご支援をいただき、そのおかげもあって、小さな女子大学の小さな研究室で、独自性の高い研究を続けていくことができました。基金への感謝は、今も心の中に生きています。

私は、基金の運営委員も務めさせていただき、この素晴らしい女性研究者の支援事業に参加させていただきました。私の後輩や教え子の何人かも、林基金のご支援をいただいて研究を発展させ、現在、大学や研究機関で活躍しています。私自身も、2年前にお茶の水女子大学学長を退任してから、研究者としての活動を再開しました。

40年も前に、林先生が女性科学者を育てようと基金を創設された慧眼には、尊敬の念を禁じ得ません。林先生のお心に支えられて研究と教育に従事してきた女性研究者の一人として、先生への感謝の気持ちを忘れず、その想いを次代に繋げていきたいと強く思っています。

© 2023 The Chemical Society of Japan